

# 団員紹介

(学部・学年・出身校)  
☆部長・総務 ◎学生指揮者 ○パトリダー

## 岡山大学男声合唱団コーラル・ロータス

### トップテノール

- 岡田俊彦(栗・3・高崎)
- 澤真弘(工・3・四条畷)
- ☆松下泰将(教育・3・土佐)
- 大西祥太(工・2・三木)
- 戒能誠介(経済・2・松山北)
- 北岡達也(教育・2・高松西)
- 吉井英人(工・2・柏原)
- 岡部峻典(理・1・藤井)
- 久保拓也(工・1・長崎西)
- 北澤伸貴(工・1・総社)
- 角将史(環境理工・1・米子東)
- 横山豪人(工・1・相生)

### セカンドテノール

- 尾崎壮紘(工・3・清風)
- 菅原和仁(工・3・丸亀)
- 奥村舟(環境理工・2・熊本学園大学附属)
- 国定辰巳(工・2・三原)
- 久田悠理(経済・2・佐世保北)
- 大西祐介(法・1・観音寺第一)
- 岸本真弥(工・1・西脇)
- 中村慎一(法・1・萩)
- 後藤孝亮(工・1・常滑)
- 平雅弘(環境理工・1・御津)

### バリトン

- 橋田光平(工・3・土佐)
- 福富拓真(理・3・富岡東)
- 西山達也(経済・2・広大附属福山)
- 村田憲彦(工・2・菟道)
- 山本哲也(理・2・関西)
- 脇本慶大(工・2・北摂三田)
- 太田佳祐(教育・1・八幡浜)
- 田村淳(工・1・城ノ内)
- 堀佑哉(法・1・戸畑)
- 三浦太郎(栗・1・八幡浜)

### バス

- 坂東恭平(経済・3・高知南)
- ◎深田幸正(理・3・豊岡総合)
- 藤原悠三(理・3・岡山白陵)
- 足立亮太(環境理工・2・米子東)
- 柳田陽平(工・2・高松西)
- 澤勢貴通(環境理工・2・大村)
- 青木直也(環境理工・1・高松)
- 長岡諒樹(工・1・倉敷青陵)
- 延末祥(工・1・徳山)
- 山本光一(工・1・津山)

## 京都大学合唱団

### トップテノール

- 遠藤隆一郎(工織・3・富山中郡)
- 太田尚志(農・3・膳所)
- 木下翔太(府医・3・甲陽学院)
- 秋武秀俊(法・2・東筑)
- 大竹祐一(法・2・土浦第一)
- 小野高裕(農・2・東筑)
- 木下健太(法・2・広島大学附属)
- 杉浦佑紀(工・2・岡崎)
- 小松遼(農・1・秀明)
- 成瀬正一(理・1・豊田南)

### セカンドテノール

- 東江佳尚(文・4・福岡)
- 富岡真(栗・4・洛星)
- 好永州宏(文・4・愛光)
- 三村智彦(工・3・淳心学院)
- 大西庸礼(工・2・愛光)
- 原田俊昌(工織・2・龍野)
- 横山諒(理・2・成城)
- 大西玄将(工・1・加古川東)
- 小瀬本雄司(文・1・名東)
- 柴田啓輔(経済・1・横須賀)
- 中山尚治(経済・1・洛星)
- 船越昌史(理・1・明治学園)
- 渡辺翔(工・1・開成)

### バリトン

- 山千代循(工・4・西大和学園)
- 岩下真也(工・3・東筑)
- 長谷部翔士(文・3・春日井)
- ☆本庄弘樹(法・3・愛光)
- 酒井茂樹(理・2・岡山白陵)
- 坂田良介(橋・2・日生第二)
- 灰原遼(工織・2・開明)
- 伊東直輝(工・1・一宮西)
- 今井比呂(文・1・春日部)
- 岩田淳(工・1・名東)
- 小松青平(栗・1・伊那北)
- 林和樹(理・1・豊田西)
- 藤本圭佑(理・1・協町)
- 矢澤直哉(工・1・広島大学附属福山)

### バス

- 松尾隆弘(経済・4・甲陽学院)
- 池谷信(理・3・浜松北)
- 西村拓哉(工・3・京都教育大学附属)
- 土居昭博(工・3・姫路西)
- 青崎長運(理・2・下関西)
- 岸瑠介(農・2・函館ラサール)
- 笹井雄太(工・2・洛星)
- 野北明寛(総合人間・2・東筑)
- 真鍋崇志(総合人間・2・札幌旭丘)
- 端諒(理・1・桃山)
- 森下友貴(総合人間・1・藤枝東)

## 横浜国立大学グリーククラブ

### トップテノール

- 石黒貴志(工・4・札幌月寒)
- 渡邊亮(工・4・真岡)
- 有松研人(工・3・半田)
- 小栗大輔(教育・3・沼津東)
- 塩尻忠史(工・3・膳所)
- 小野謙士郎(工・2・桐蔭)
- 小林靖典(経済・2・富士)
- 中根悠太(教育・2・豊田南)
- 齋藤慧(工・1・前橋)
- 坂崎翔一(経済・1・四日市)
- 永牟田寛信(工・1・泉立浦和)

### セカンドテノール

- 渡邊啓太(工・M2・厚木)
- 井谷達哉(工・M1・斐太)
- 前村俊一(経済・4・江戸川学園取手)
- 河野弘樹(工・3・甲府西)
- 財津直也(工・3・智辯和歌山)
- 高橋健太郎(経済・3・聖光学院)
- 石田亮介(経済・2・秦野)
- 関口徹(工・2・栄東)
- 山田晴一郎(経済・2・聖光学院)
- 馬場宇大(工・1・泉立浦和)
- 福光一生(経済・1・都立国立)
- 松永竜之介(経済・1・筑紫丘)

### バリトン

- 千田孝幸(経済・4・伊津中央)
- 岩川純士(経済・3・清水東)
- 大友建矢(工・3・東邦大学付属東邦)
- 原田慎吾(工・3・徳山)
- ☆吉川明宏(経営・3・逗子開成)
- 青木丈(工・2・磐田南)
- 武田洋(工・2・一宮興道)
- 丸山駿輔(工・2・多摩大学目黒)
- 井上拓哉(工・1・西脇)
- 樽井遼(経済・1・栄光学園)
- 前田雄真(経営・1・ラ・サール)
- 吉田直樹(経営・1・中央大学)

### バス

- 国分諒二(経済・4・大分上野丘)
- 笹森栄吉(工・4・横浜翠嵐)
- 中村佑(経済・4・都立大付属)
- ◎○川村友規(教育・3・日本大学)
- 清水大和(経済・3・柏崎)
- 高橋佳久(工・3・沼津東)
- 大石雄一(工・2・前橋)
- 佐藤弘行(工・2・山形南)
- 徳江純一(経済・2・新潟第一)
- 外野智郁(経済・2・沼津東)
- 渡邊弘(工・2・横浜翠嵐)
- 浅野悠(工・1・新居浜西)
- 後藤裕介(工・1・鶴見)
- 長友竜馬(経済・1・宮崎大宮)
- 茂木健太郎(経済・1・私立武蔵)
- 八幡大嗣(経済・1・三重)

# JOINT CONCERT '09

～謳歌三舞会～

岡山大学男声合唱団コーラル・ロータス  
京都大学男声合唱団  
横浜国立大学グリーククラブ

2009年 8月8日(土)

めぐろパーシモンホール 大ホール

## 編集後記

本日は、お忙しい中Joint Concert '09  
にご来場いただきまして誠にありがとうございます。原稿を執筆していただきました先生方、デザイン制作を引き受けいただきました加藤直樹様、関東ブリンテック株式会社様、そして当演奏会の開催にあたりご協力をいただきました皆さまの方々にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

## ごあいさつ

横浜国立大学グリークラブ顧問

### 茂木一樹

ジョイントコンサートの開催を祝す

岡山大学、京都大学の男声合唱を愛する皆さんとのジョイントコンサートの開催おめでとうございます。合唱は合唱としての楽しみや喜びを生むと同時に、音楽や芸術としてのそれをも生じさせます。ハモリや一体感、迫力といった前者（団の諸君なら十分に味わっているでしょう）の源泉であると同時に、人間の広く深い文化所産である音楽、芸術の、いわば底なしの魅力の一翼を担ってものいるのです。当コンサートで諸君が合唱の芸術的な魅力を心から味わい、この世に存在していることのそんな「恵み」を通じ、歌いつつ生きていく幸せをかみしめられるようお願いしています。

#### 京都大学男声合唱団顧問

### 加藤文元

この度、横浜国立大学グリークラブのお声掛けで、岡山大学男声合唱団コール・ロータスとともにジョイント・コンサートを行動えることは心からの喜びです。京都大学男声合唱団は、昭和6年（1931年）に設立された京大合唱団の男声部として、女声部である京都フ라우エン・コールとともに独立の活動をして参りました。設立当初より音楽面でも実務面でも構成員のみによる活動を旨とし、外部からの指導者等は置いておりません。そのためもあり歴史上幾度か団存続の危機を経験しましたが、それらを乗り越え現在に至っております。長い歴史の中では多くの著名な卒団生を輩出し、その中には作曲家の多田武彦氏もおります。このように古き伝統のある合唱団ではありませんが、学生主体の運営で指導者を置かないことから、毎年全く新しい合唱団に生まれ変わるのも当団の特徴です。今宵は合唱を通して互いの交流を深め合い、団員一人一人にとつて忘れ得ぬ思い出となることでしょう。そして観客の皆さんにも、ホール全体にみなぎる若々しい力にご期待頂きたいと思えます。

**岡山大学男声合唱団コール・ロータス顧問 大月洋先生**のご挨拶は、先生の都合により割愛させていただきます。

## 指揮者・ピアニスト紹介

指揮者

### 伊東恵司

京都市在住。90年同志社大学を卒業（ポストモダン芸術論を専攻）。同志社グリークラブ学生指揮者として（故）福永陽一郎に師事。90年以降「淀川混声合唱団」「合唱団：葡萄の樹」等で合唱指揮者として活躍。

99-08までに出場した全日本合唱コンクールでは「なにわコアラアーズ」の10年連続金賞（シード権獲得7回／文部科学大臣賞3回）をはじめ、複数団体を率い13個の金賞と6個の銀賞を受賞。宝塚国際室内合唱コンクール20周年記念大会では海外の有力団体をおさえグランプリ総合1位を獲得している。現在は、全国各地で合唱指導を引き受けるほか、「アルティ声楽アンサンブルフエスティバル」の企画運営、市民参加型合唱劇のプロデュース、子どもたちにわらべ歌を教えるために「みやこキッズハーモニー」を創設する等、「合唱」に関する多彩な仕掛けを行なっている。大阪府合唱連盟理事、京都府合唱連盟理事、日本合唱指揮者協会会員、21世紀の合唱を考える合唱人集団「音楽樹」会員。

#### 指揮者

### 飛永悠佑輝

横浜国立大学工学部在籍中にグリークラブの学生指揮者を務める。

1986年卒業、同年桐朋学園大学オケストラ研修生（指揮専攻）入学、1991年修了。指揮法を秋山和慶、飯守泰次郎、故上杉隆治、小沢征爾、尾高忠明、E・アチエル、H・リリック、音楽理論を故平吉毅州、和声・対位法を高橋喜治、ヴァイオリンを故江藤俊哉、ピアノを岡井直子、関三知子、室内楽を岡宮芳生の各氏に師事する。

現在、横浜国立大学グリークラブOB合唱団、合唱団「ASUKA」、六声会合唱団、合唱団「新声会」、Ensemble Nowの各常任指揮者、アマチュアオケストラの客演指揮者として活躍中。神奈川県合唱連盟理事。かながわ合唱指揮者クラブ会員。

#### ピアニスト

### 黒澤美雪

東京芸術大学音楽学部ピアノ科卒業。同大学在学中にNHK洋楽オーデインション、東京文化会館オーデインションに合格。国際ロータリー財団奨学生として、オーストリア、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学に留学。在欧中、バルセロナのマリアカナルス国際コンクールにてディプロム受賞、コンサートに出演。帰国後は、リサイタル、NHK-FM出演、オーケストラとの共演、室内楽や伴奏、藤沢市民オペラの音楽スタッフとして活躍中。合唱のピアニストとしても、藤沢男声合唱団、湘南市民コール、同志社大学グリークラブ、東京工業大学シュヴァールペンコール、上智大学グリークラブなど多数の団体と共演している。

ピアニスト

### 佐藤美保子

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。これまでにピアノを故岡林千枝、福岡幸子、室内音楽を三善晃、大島正奏、原田幸一郎、二宮和子の各氏に師事。

1988年ウィーン国立アカデミー夏季セミナーに参加。ミヒャエール・クリスト氏に師事。1990年、第4回日本モーツァルトピアノコンクールピアノ部門2位。1993年PTNAピアノコンペティションデュオ部門最優秀賞。1994年、ピアノデュオリサイタルを行い好評を博す。1999年、オーチャードホールにて新屋日本交響楽団と共演。現在、ソロ、室内楽、合唱伴奏等で活躍中。横浜市民広間演奏会員。

#### 岡山大学男声合唱団コール・ロータス指揮者

### 深田幸正

深田幸正 ～闇に舞い降りた凡才～

「ククク…なるほど…凡夫だ…的が外れてやがる」

「残念ながら俺は合理という縄じやオレは縛れねえよ…」

「不合理こそオレの本質。不合理に身を委ねてこそ深田幸正というものだ…」

ちなみに彼の地元である兵庫北部では「そば」・「かに」・「こうのとり」が名産らしい。主食はご飯にきな粉をかける通称「きな粉ご飯 ～腹へりMAXや～」である。

ざわ… ざわ…

#### 京都大学男声合唱団指揮者

### 岩下真也

彼は冷静な男だ。

パートリーダー達の度重なる運刻にもめげず、常に周囲を的確に分析し、団員の信頼を集めている。その真面目な態度は音楽に對してもいかんなく発揮され、常に楽語と真摯に向き合っている。

彼は熱い男だ。

彼は好きなものを語る時誰よりも雄弁になる。特に麻雀について語り出したら止まらない。練習中も、曲の世界観やストーリーを伝えるため、自分の想いを情熱的に語り、団員を楽しませる。

彼はアルパカに似ている。

アルパカは時速40kmで走ることが出来る。彼は時速40kmで指揮棒を振ることが出来ない……かもしれない。

そんな彼が今日ローセキで描くもの、それは……。

ぜひその目で確かめてほしい。

## 団紹介

### 岡山大学男声合唱団コール・ロータス

本日は、ご来場下さり誠にありがとうございます。私どもは岡山大学男声合唱団コール・ロータスと申します。

私どもの団は1961年に設立してから今まで、ロータスの持つ伝統と歌への情熱を胸に日々努力して参りました。またこの間、一時は少なかった団員数も、今年で60名を超える程に成長し、今年は団として、騒がしいながらも充実した日々を送っております。

本日の演奏では、そのロータスの持つ伝統と歌への情熱が、皆様の胸に届かんことを願っております。また、私どもの団は「人として成長する」ことをモットーとしております。ですので、歌っている・いないに関わらず、どのような場面でも緊張感を持って臨んでおります。そこから団員の「一人一人が格好良く」という思いを少しでも感じて頂ければ、私どもにとつて感激の極みでございます。本日は、そのような思いが皆様に伝わり、楽しめる演奏をお届けしたいと思っております。

### 京都大学男声合唱団

ご来場の皆様、こんにちは、京都大学男声合唱団です。この度は、横浜国立大学グリークラブ、岡山大学コール・ロータスとともにジョイントコンサートを開けたことをうれしく思います。

我が団は、男声合唱と名乗るように、男声での合唱活動を行う一方、普段は、女声合唱団である京都フ라우エンコールとともに京大合唱団を構成し、混声合唱も楽しんでいます。全国でも非常に稀な活動形態をとっています。

そして、一年間に三回の演奏会を行っています。春に行う春の発表会、夏に行うジョイントコンサート、そして一年の締めくくりとなる定期演奏会。春の発表会と定期演奏会は、京大合唱団として演奏会を開き、ジョイントコンサートでは、今回のように、男声だけの演奏会を開いたりしています。ジョイントコンサートに向けての団員は、男だけということや夏であるということも相俟って、他の演奏会とは違った異様な盛り上がり方を見せます。

しかし、うちの団の凄さはそれにとどまりません。合唱の練習ばかりかと思いきやそうではなく、団員百人弱でぞろぞろとピクニックに出かけたり、七夕シーズンには笹を流したりと、真剣なときには真剣に、遊ぶときにはとん遊ぶことを忘れません。

このように、我が団はとてもユニークな団です。そして、朱に交われれば赤くなるのか、類が友を呼ぶのかは分かりませんが、うちの団には個性豊かなメンバーばかりが集っています。

今宵は、個性豊かな団員がそれぞれの情熱をこのステージにぶつけます。どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。

### 横浜国立大学グリークラブ

横浜国立大学グリークラブは、昭和22年に横浜高商グリークラブと横浜高工音楽部を母体として発足しました。以来、幾多の変遷を経て、また、大学闘争など様々な困難に見舞われつつも、先輩諸兄のご尽力によりそれらを乗り越えて現在に至っております。

60年の歴史の中で、人々の価値観は様々に変わっていきました。しかし、合唱を通して人と人の間に生まれる「メンタルハーモニー」は、この時代の中でも決して途絶えることなく脈々と受け継がれています。今日は練習の成果を十二分に発揮し、皆様方と感動を共有できれば幸いですと存じます。

## 曲紹介

男声合唱組曲

### 「草野心平の詩から」

ステージ1 - 岡山大学男声合唱団コール・ロータス　【作詩】草野心平　【作曲】多田武彦　【指揮】深田幸正

草野心平（1903～1988）氏の作風は豪放である一方、東洋的叙情にあふれる作品も多い。

男声合唱組曲「草野心平の詩から」は幻想絵画的な五つの詩が、作曲家多田武彦氏によって選ばれている。

作曲者の多田氏はこの曲について次のように述べている。

「第一曲『石家荘にて』は、詩人が北支石家荘に立った時、その地の月蛾（遊女）を描いたもので、茫漠とした平野の中の一都会の遊女の姿が異様なまでに寂しく美しく想像される。

第二曲『天』は詩人特有の筆法で描かれたもの。「五センチの富士」「青ブリキ」等の表現は即草野心平の世界であった。

第三曲『金魚』…おおみどろの中の中金魚を眺めていると、いつの間にかそれがかそれがか広漠たる平野の向こうの夜火事のように見える…こうした底知れぬ美しさを無伴奏男声四部合唱のモノトーンの美しさにのせて書いていく時、私はずっと身震いを禁じ得なかった。

第四曲『雨』は一転して素朴な湯治場の雨の風景。

第五曲『さくら散る』は、私が17歳の頃、京都嵯峨野小倉山二尊院門前の桜の古木並木から一斉に舞い落ちた桜の花びらを長い時間見続けていた午後のことを思い出しながら作曲した。」

#### 無伴奏男声合唱組曲

### 「今でも…ローセキは魔法の杖」

ステージ2 - 京都大学男声合唱団　【作詞】柴野利彦　【作曲】遠藤雅夫　【指揮】岩下真也

皆さんは、自分が子供だった頃のことを覚えていますか？

想像力豊かで、毎日がすごく新鮮で、今思うとちっぽけなことに喜んだり泣いたりしていた、幼い頃のことを。

人はいつか大人になります。

鮮やかだった日々が、だんだん色あせてしまいます。

でも、子供の頃の純粋な気持ちを思い出し、無垢な心で目の前の"いま"を見るとき…

世界は再び輝き出し、希望に満ちた未来がきっと見えてくるはず。

この組曲は、成長の物語です。

皆さんも、子供の頃の純粋な気持ちを思い出してみてください。

そして、"いま"をもう一度見つめなおしてみてください。

きっと今ままでとは違った、眩しい世界が開けるでしょう。

I. 溢れる泉は日々を巡り

幼い頃のことを思い返します。

あの頃は無邪気で、周りのもの全てが鮮やかで、まるで自分が、世界の中心にいたようでした。

II. 道路は巨大なキャンパス

ローセキで道路に落書きした絵が、まるで魔法のように抜け出し、いきいきと動き始めます。

I日中遊んだ後の疲れも、心地良いものでした。

III. 炎のように

成長するにつれて、めまぐるしく変わってしまう世界。

幼い頃の空想が裏切られ、現実を知るたびに、小さな胸はどんどん傷ついてしまします。

IV. 爽やかなしモンの風

現実の世界を拒み、子供の頃の空想にしかみついていては、いつまでも成長することはできません。

純粋な心で、しっかりと"いま"を見つめていこう。

V. 深い眠りに包まれて

自分の心の中で眠っていた、幼い頃の思い出がよみがえり、目の前の"いま"が、新しい世界へと姿を変えます。まるで冬が終わり、春が訪れるように。

VI. 明るい光に満ちた季節は戸惑いを止め

目の前に広がる、明るい光に満ちた世界。

子供のよう純粋な心を胸に抱いて、眩しい未来に向かって歩き出します。

男声合唱組曲

### 「Enfance finie ～過ぎ去りし少年時代～」

ステージ3 - 横浜国立大学グリークラブ　【作詞】三好達治　【作曲】木下牧子　【指揮】飛永悠佑輝　【伴奏】佐藤美保子

男声合唱組曲「Enfance finie ～過ぎ去りし少年時代～」は木下牧子によって作曲され、1987年に東京経済大学グリークラブによって初演された曲集であり、三好達治の詩を用い、少年時代へのノスタルジア、母を思う気持ち、切ない恋心などいつの時代の若者にとっても変わることはない心情が表現されている。ピアノもさることながら、ハーモニーや歌そのものの美しさを表現している曲集である。

I. Enfance finie（「測量船」より）
少年時代への郷愁を表現した曲であり、テンポの変化やメロディを歌うパートの変化など心情の移り変わりを表現している。だれしもが少年時代に抱く未来への希望を胸に抱きつつも、過去と向き合えずに、前だけを見ることができきない気持ちちが表されている。この組曲の表題でもあるEnfance finieとはフランス語で「過ぎ去りし少年時代」という意味である。

II. 物語（「測量船拾遺」より）
恋の切なさ、特に失恋の悲しさ、無力感が表現されており、ゆったりとしたテンポの曲である。旋律の美しさが際立っている曲の一つである。恋の物語が罪の物語に変わっていることから後悔や自責の念が見受けられる。失恋の感情や無力感を歌っているのだが、旋律の美しさのように恋への期待感が大きかったように思われる。

III. 毀れた窓（「一點鐘」より）

テンポが軽快な曲で聞いていて心地の良い旋律やピアノが印象的な曲である。廃屋にある窓から5月の海を眺めている際に現われてくる数々の景色の変容から、ふと自身の過去が思い出され懐かしみ、それを思い出させた窓に親しみを覚えるのである。パートからパートへの旋律の移り変わりが心の中でのリフレインや過去へ抱く入り混じった感情を表現している。

IV. 乳母車（「測量船」より）

母親への思いが表現されており、テンポがゆったりとしている分一つ一つの言葉に重みを感じる曲である。物語と同様に旋律が際立つ1曲である。夕暮れ時に乳母車を押されながら、未来の多様性に似た色とりどりの情景を描いており、母よ、母よ、何度も呼びかけるように、母親への変わりない感情を表現している。

#### 男声合唱とピアノのための

### 「くちびるに歌を」

ステージ4 - 合同演奏　【作曲】信長貴富　【指揮】伊東恵司　【伴奏】黒澤美雪

男声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」は信長貴富によって作曲され、2005年6月に東海メールクワイアーによって初演された作品である。ドイツ語の詩とその日本語訳詩から成り立ちっており、ドイツ語でロマンティックな音像を、日本語で情感を呼び覚ますように表現されている。ドイツロマン主義の4詩を用い、渴いた現代を潤すようなロマンティックな表現、音楽を追求した作品である。

I. 白い雲

20世紀のドイツ文学を代表する文学者であるヘルマン・ヘッセの詩が用いられており、ヘッセは故郷を希求しながらも放浪をどこかで求めており、雲のように形のないものや定まりがないものを詩に表現している。ドイツ語と日本語が入り混じることが定まることのない空のようであり、その空を漂う雲のような旋律が印象的な曲である。

II. わすれなぐさ

わすれなぐさとは漢字で勿忘草と書き、英語名は「Forget me not」といい、3月～5月の春から夏にかけて薄い青色や紫色の花を咲かせる植物であり、語源は中世ドイツの悲哀物語の主人公の言葉に因んでいる。無伴奏のドイツ語の場面での表情の変化によって回想の深さ、そして同じ歌詞を繰り返し用い、回想におけるリフレインをより際立たせている。

III. 秋

ライナー・マリーア・リルケはオーストリア人であり、世紀転換期を代表するドイツ語詩人とされており、「秋」は経験的な詩であり、「すべてに落下がある」ことと同様にそれを救済する存在があることを表している。落下することの激しさや不安感を力強さやリフレインで表現しており、最後のリフレインの表現も印象的な曲である。

IV. くちびるに歌を

ドイツの詩人であるツェーザー・フライシュレンの詩を、作曲者でもある信長貴富が、訳・歌詞構成している。詩の原題は「心に太陽を持って」であり、山本有三の訳詩が有名である。作品を通して、詩から受けたインスピレーションを音にしていき、言葉を再発見していったとことであるが、この曲はそれをよく表した曲になっている。全パートユニゾンで歌う旋律や終盤のたたみかけるような旋律が印象的な曲である。